

### (3) 生物調査

#### 自然観察の森について

##### 1. 動植物の状況

###### (1) 植物

###### ①樹木

ケヤキ、シラカシ、スダジイ等の歴史を感じさせる大径木をフラッグシップに、マツ、ヒノキ、コブシ、カキノキ等の植栽由来の樹種が混じり、屋敷林らしい樹種構成となっている。同時に、エノキ、ムクノキ、ケヤキ、ミズキ等、やや湿潤な立地に生える樹種が多く生育しており、善福寺川に面した段丘斜面～低地の自然植生であるエノキ・ムクノキ群集の要素がみられる。ムクノキやエノキは根株が板根状になった大木も存在する。一段上がった平坦地でもシラカシやスダジイが多く、自然植生的な要素が垣間見られる。また、個体数は少ないものの、武蔵野台地の二次林の種群であるイヌシデやコナラもみられる。大気汚染に弱いとされるモミの存在も注目される。

一方で、遷移の進行に伴い、シロダモ、ヒサカキ、シラカシ、アラカシ等の常緑性の小高木が増えている。また、シュロ類やトウネズミモチ等の逸出種も目立つ。

種 群	樹 種
植栽由来の代表種	ケヤキ、スダジイ、シラカシ(大径木)、エノキ(大径木)、ムクノキ(大径木)、アカマツ、ヒノキ、スギ、コブシ、イチョウ、カキノキ、ヤブツバキ
自然植生的な種群(低地)	ムクノキ、エノキ、ケヤキ、ミズキ
自然植生的な種群(台地)	スダジイ、シラカシ、アラカシ、ヒサカキ
武蔵野的な種群	コナラ、イヌシデ、アカマツ
逸出種、外来種	シュロ類、トウネズミモチ
注目種	モミ



写真 大径木のケヤキやシラカシの樹林



モミ(左)とムクノキ(右)

## ②林床植生

大径木や常緑の小高木が覆う林内は暗く、草本類は少ない。林床では、アオキ、ネズミモチ、シロダモやシラカシの稚樹等が散生し、サネカズラやササ類がパッチ状に生育する。全体的に耐陰性の強い種が卓越している。

やや明るいギャップや林縁等では、ムクノキやエノキの実生が多くなる。また、チャ、クマザサ、ツワブキ、ノシラン、ヤダケ、ツツジ類、シャリンバイ等の植栽由来の種群がみられ、人為の強い種組成となっている。

個体数は少ないものの、ウラシマソウ、キランソウ属の一種、ヨメナ属の一種、マルバスマイレ、ヒメカンスゲ等、かつての武蔵野の面影を感じさせる野草も残存しており、希少な存在である。

全体に逸出種のトウネズミモチやシュロ類の実生が多く、一部ではクズやササが繁茂したような箇所もある。

種 群	樹 種
植栽由来の代表種	チャ、クマザサ、ヤダケ、シャリンバイ、ツツジ類、センリョウ、ツワブキ、ノシラン、ハラン、
自然植生的な種群	サネカズラ、ヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ヤブミョウガ、ベニシダ
武蔵野らしい種群	ウラシマソウ、キランソウ属の一種、ヨメナ属の一種、ヒメカンスゲ、マルバスマイレ、コゴメウツギ
逸出種、外来種	オオブタクサ、アレチウリ
注目種	ホトトギス属の一種

## ②動物

昆虫では、まとまった樹林地を反映して、ヒグラシやニイニイゼミ、ミンミンゼミ等のセミ類が多く、また、サトキマダラヒカゲやヒメジャノメ、ムラサキシジミ等の樹林性のチョウが多く生息している。

広域的な種であるナミアゲハやクロアゲハ、アオスジアゲハも飛来し寝場所等に利用している。また、水辺に近いことから、トンボ類が採餌や休息に樹林地を利用している。甲虫類は少なく、地上徘徊性の種は8月の調査では確認されなかった。

鳥類は、ヒヨドリ、ハシブトガラス、キジバト、シジュカラ等、都市部でみられる一般的な種がみられる。エノキやムクノキ等の実をつける樹木が多いことから、今後冬鳥の飛来が増えることが予想される。

哺乳類では、小規模なタヌキの溜め糞が確認され、時折この樹林を使用しているようである。

外来種については、近年増加傾向にあるアカボシゴマダラが盛んにエノキに産卵していた。

動物相の特徴としては、樹林性の種が定着して利用しているが、広域的な種群の利用箇所としても機能している。踏み荒らしの無い林床や、林縁等の藪の存在が、クモや樹林性の昆虫類に好適な環境となっているといえる。

## 2. 自然観察の森の自然

屋敷林由来の種構成が基本であるが、自然植生的な要素とかつての武蔵野の植生の要素が混在している。ケヤキやシラカシの大径木が主木となる屋敷林由来の樹林は、コナラやクヌギが優占する雑木林由来の樹林とは異なる生態系が成立する。また、川沿いに面した立地に存在することも種の多様性を増すだけでなく、広域的な視点においても重要である。都市において、まとまった大径木林は貴重であると同時に、生態系のホットスポットとして、また、川沿いのコリドーの拠点として機能する。

現状では遷移が進行し、常緑性植物の増加、ササや蔓性植物の増加、逸出種の侵入もみられる。陽性の野草にとっては藪の被陰は障害となるが、藪を選好する種群も存在する。また、逸出種等の相応しくない種も増え始めている。種の分布等に応じて、適正な管理を行っていくことが望まれる。

屋敷林は地域文化においても重要な存在である。大径木の屋敷林は歴史や文化を感じさせ、地域の魅力を見直す契機となる。

大径木林の豊かな生態系と歴史性は、都市に潤いや安らぎを与え、気象緩衝や景観形成等のさまざまな生態系サービスを提供する、極めて重要な自然であるといえる。



### 3. 草本調査（夏季）

#### (1) 重要種調査

##### ①方法

「環境省レッドリスト」、「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版」、「杉並区自然環境調査報告書の注目種」の記載種の有無について、踏査確認を行った。8月8日に実施した。

##### ②結果

「環境省レッドリスト」、「東京都レッドリスト」、「杉並区自然環境調査報告書の注目種」の記載種は確認されなかった。東京都レッドリスト記載種であるヤマジノホトトギスの可能性があるホトトギスの一種が1個体確認されたが、同定には開花を待つ必要がある。屋敷跡地であるため、植栽由来の可能性もある。

レッドリスト記載種ではないが、ヨメナ属の一種、マルバスマイレ、ウラシマソウ、キランソウ属の一種、タチツボスマイレ等、かつての武蔵野台地に広くみられた野草が僅かに残存していた。その他、ヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ヒメカンスゲ（1個体）、ヤブミョウガ、ヤマイタチンダ（1個体）、ベニシダ（2個体）等、常緑樹林に生える草本類が確認された。

特定外来生物指定種では、「要注意外来生物」のオオブタクサが確認された。また、隣接地に「特定外来生物」のアレチウリが群生しフェンスに絡んでいるので、侵入しやすい状況となっている。



ホトトギスの一種



ヨメナ属の一種



マルバスマイレ



ウラシマソウ



キランソウ属の一種



タチツボスマイレ



ヤブランとナガバジャノヒゲ



ヒメカンスゲ



ヤブミョウガ





ヤマイタチシダ



ベニシダ



オオブタクサ

## (2) 林床植生調査

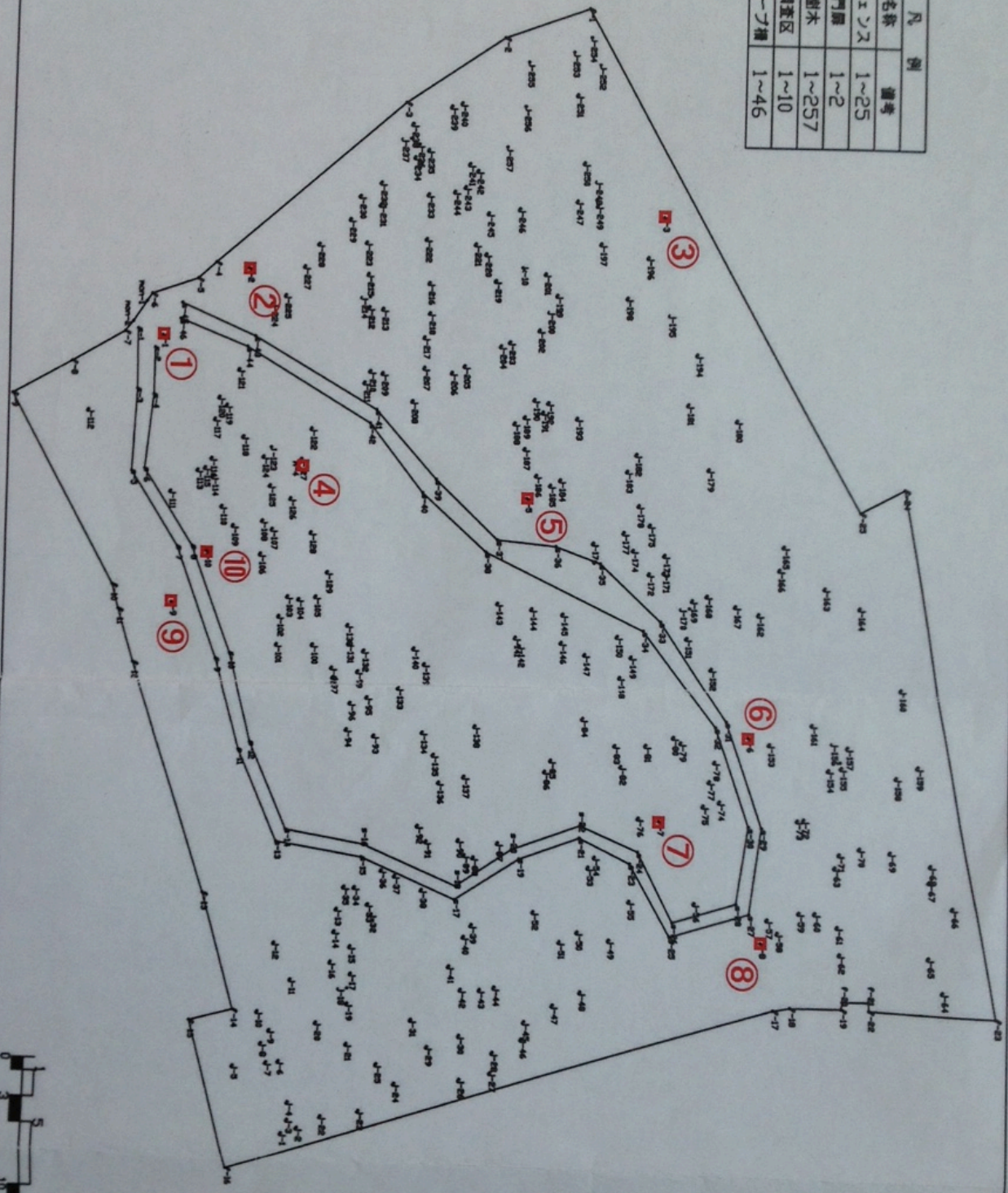
### ①方法

草本層の代表的な植生箇所にて 1 m<sup>2</sup> の調査区を 10 か所設置した。各調査区の出現種、各種の植被率と草高を記録し、積算優占度 SDR<sub>2</sub> を算出した。積算優占度 SDR<sub>2</sub> は、全ての調査区内の植被率の最大値、草高の最大値から出現種ごとに植被率の比数 C' と草高の比数 H' を算定し平均したものであり、量的な優劣関係を総合的に示す指標となる。調査は 8 月 8 日に実施した。

$$\text{積算優占度} : \text{SDR}_2 = (C' + H') / 2$$



凡例	記号	名称	備考
♂	♀	フェンス	1~25
MON	♂	門扉	1~2
♂	♂	樹木	1~257
📍	📍	調査区	1~10
S	📍	ロープ橋	1~46



調査区①~⑩位置



凡 例		
記号	名称	備考
f	フェンス	1~25
mon	門扉	1~2
j	樹木	1~257
□	調査区	1~10
s	ロープ槽	1~46

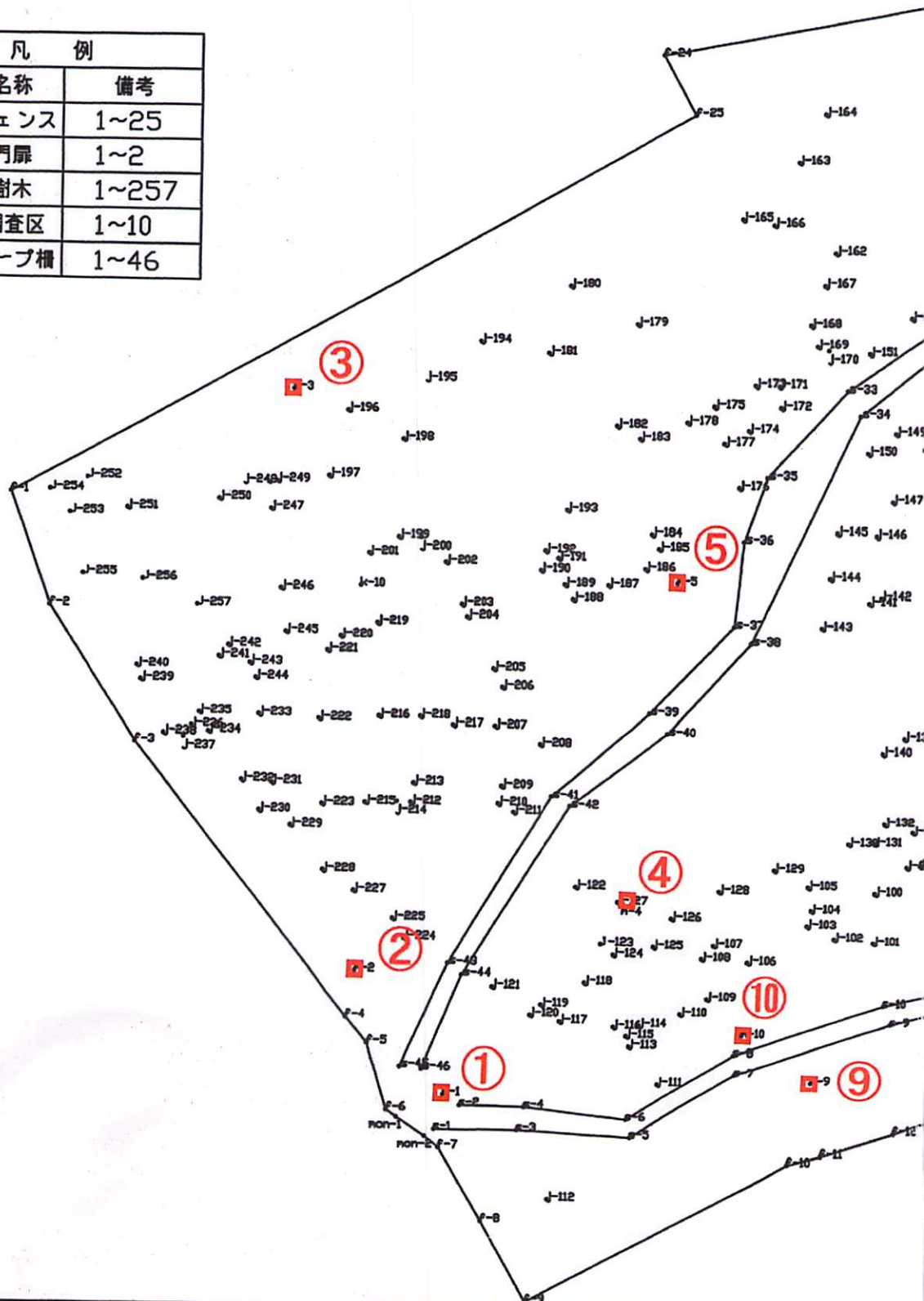
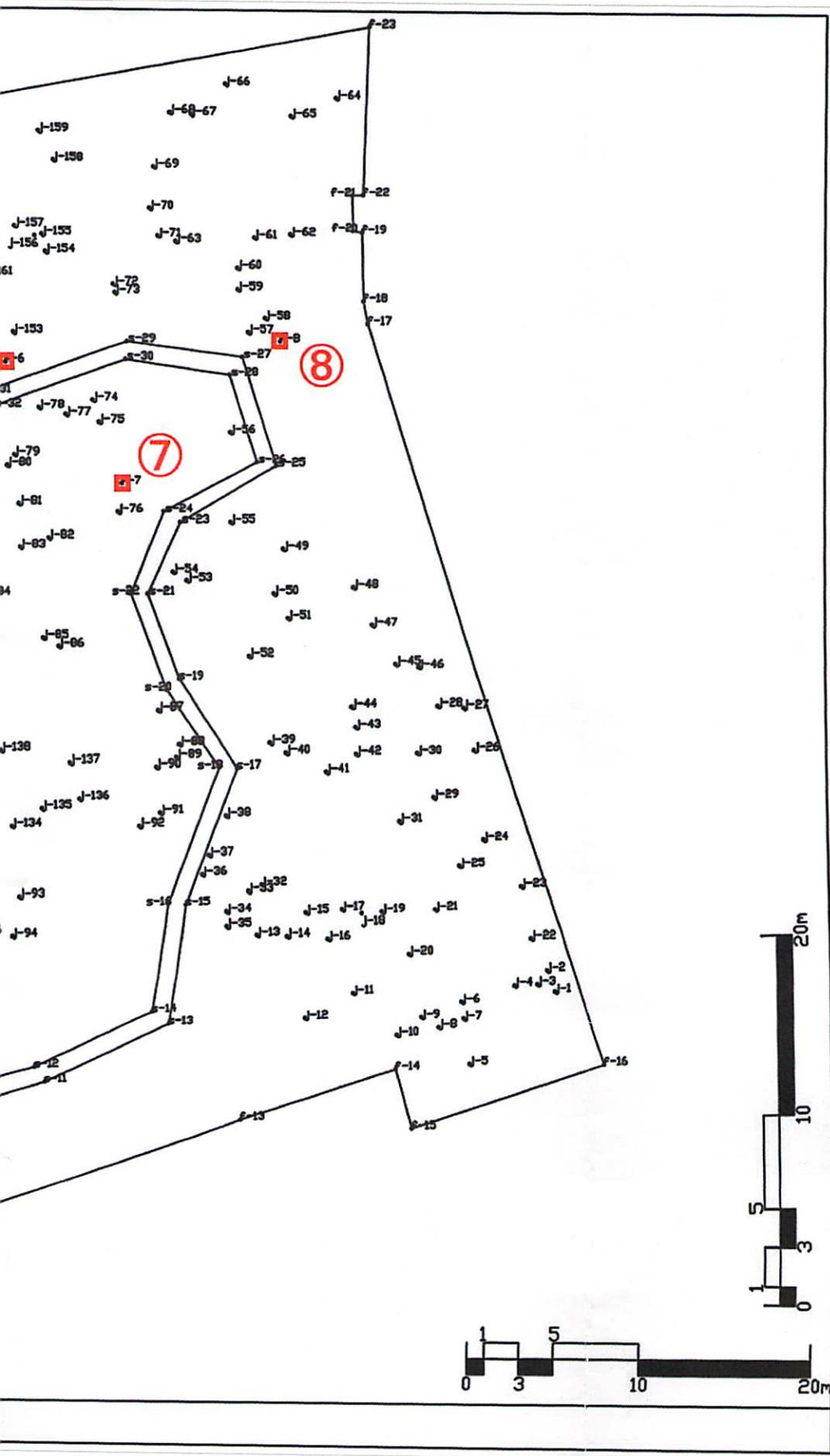


図 調査区①~⑩位置





## ②結果

### ・概況

林内では林床植生は少なく、ナガバジャノヒゲ、ヤブラン等の陰性の草本類、シロダモやネズミモチ等の常緑樹の実生木が散生する。

やや明るい場所でジュウニヒトエ、タチツボスミレ、ケチヂミザサ、ムクノキやエノキの実生が確認された。

草本類は林縁部に多く、善福寺川側はやや湿潤な立地を反映し、ドクダミやミズヒキ、コナスビ、ヤブヘビイチゴ等がみられる。適潤地の北側、東側の林縁部ではクズ、ケチヂミザサ、アズマネザサ、シロヨメナ、ハルジオン等が確認された。南側は植栽由来のクマザサの一種が優占し、植栽されたツワブキが残存していた。

### ・各調査区の状況

調査区①：やや湿潤な立地の林縁部。クサギの実生木、ミズヒキ、エナシヒゴクサが優占する。

調査区②：刈り払いが行われた林縁部。低茎の草本が多く、マルバスミレが確認された。

調査区③：刈り払いが行われた林縁部。ヨメナ属の一種が確認された。

調査区④：種数の少ない暗い常緑樹林内の典型的な植生で、ヤブラン、ナガバジャノヒゲが生育する。

調査区⑤：亜高木層が欠落したギャップ的な環境で、ムクノキ、ケヤキ、エノキなどの実生木が多く生育する。

調査区⑥：草本類の少ない暗い常緑樹林内の典型的な植生であるが、ウラシマソウが生育する。

調査区⑦：落葉樹下でやや明るく、キランソウ属の一種が散生する。

調査区⑧：屋敷林跡地であることがわかる植生。植栽由来のクマザサ、ツワブキが生育する。ササの優占により種数は少ない。

調査区⑨：刈り払いが行われたやや湿潤な林縁。コナスビが生育する。

調査区⑩：常緑樹林の林縁。サネカズラやナガバジャノヒゲが優占する。



調査区①



調査区②



調査区③



調査区④



調査区⑤



調査区⑥





調査区⑦



調査区⑧



調査区⑨



調査区⑩

表 各調査区データ

調査区	科名	種名	植被率%	草高cm	SDR2
①	タデ	ミズヒキ	70	70	93.75
	クマツヅラ(シソ)	クサギ	15	80	60.71
	カヤツリグサ	エナシヒゴクサ	10	15	16.52
	ヒユ	ヒナタイノゴツチ	8	60	43.21
	イネ	アズマネザサ	6	15	13.66
	シソ	カキドオシ	5	5	6.70
	ウリ	カラスウリ	4	60	40.36
	イネ	ケチヂミザサ	2	15	10.80
	ニレ	ケヤキ	1	5	3.84
	ウリ	アマチャヅル	0.5	5	3.48
	スミレ	アメリカスミレサイシン	0.1	5	3.20
計		11種			296.23
②	イワテンダ	イヌワラビ	25	20	30.36
	ブドウ	ヤブガラシ	10	10	13.39
	ブドウ	ツタ	10	3	9.02
	ナス	ヒヨドリジョウゴ	8	25	21.34
	カタバミ	カタバミ	5	5	6.70
	キク	ハルジオン	4	5	5.98
	スミレ	マルバスマシ	3	2	3.39
	ニレ	ムクノキ	3	20	14.64
	イネ	ケチヂミザサ	2	5	4.55
	マツバサ	サネカズラ	2	10	7.68
	スミレ	タチツボスミレ	1	3	2.59
	カヤツリグサ	エナシヒゴクサ	1	20	13.21
	ドクダミ	ドクダミ	1	5	3.84
	ウコギ	キツタ	1	3	2.59
	バラ	ヤブヘビイチゴ	0.8	3	2.45
	キク	オニタビラコ	0.5	1	0.98
	カタバミ	ムラサキカタバミ	0.3	3	2.09
計		17種			144.80
③	マメ	クズ	20	35	36.16
	イネ	アズマネザサ	15	20	23.21
	キク	ヨメナ属の一種	12	35	30.45
	アカネ	ヘクノカズラ	5	25	19.20
	ドクダミ	ドクダミ	1.5	20	13.57
	ウリ	カラスウリ	0.5	5	3.48
	ブドウ	ツタ	0.5	5	3.48
	ニレ	ムクノキ	0.1	5	3.20
計		8種			132.75
④	ユリ(クサスギカズラ)	ナガバジャルヒゲ	7	20	17.50
	ユリ(クサスギカズラ)	ヤブラン	4	20	15.36
	ツバキ	チャ	3	15	11.52
	クスノキ	シロダモ	1.5	15	10.45
	ヤシ	シュロ	0.5	10	6.61
	モクセイ	ネズミモチ	0.3	5	3.34
	ニレ	ムクノキ	0.02	5	3.14
計		7種			67.91



調査区	科名	種名	植被率%	草高cm	SDR2	
⑤	ニレ	ムクノキ	15	20	23.21	
		クスノキ	15	30	29.46	
		イネ	アズマネザサ	12	35	30.45
		ニレ	エノキ	6	35	26.16
		ニレ	ケヤキ	5	30	22.32
		モクセイ	トウネズミモチ	5	30	22.32
		ツバキ	チャ	4	20	15.36
		ユリ(クサスギカズラ)	ジャノヒゲ	4	10	9.11
		ミズキ	ミズキ	2	10	7.68
		アカネ	ヘクソカズラ	2	5	4.55
		イネ	チチミザサ	1	5	3.84
		トウダイグサ	アカメガシワ	0.4	5	3.41
	計		12種			197.88
	⑥	キョウチクトウ	テイカカツラ	25	10	24.11
モクセイ		ネズミモチ	8	60	43.21	
クスノキ		シロダモ	7	35	26.88	
ツバキ		チャ	5	50	34.82	
サトイモ		ウラシマンウ	2	20	13.93	
計			5種			142.95
⑦	マツブサ	サネカズラ	22	15	25.09	
	カヤツリグサ	ヤブスゲ	12	15	17.95	
	シソ	キランソウ属の一種	4	5	5.98	
	ニレ	エノキ	1.5	15	10.45	
	ヤシ	トウシュロ	1.5	10	7.32	
	イネ	チチミザサ	0.5	3	2.23	
	ニレ	ケヤキ	0.4	5	3.41	
	モクセイ	ネズミモチ	0.3	5	3.34	
	シソ	イヌトウバナ	0.2	5	3.27	
	キク	オニタビラコ	0.2	1	0.77	
計		10種			79.80	
⑧	イネ	クマザサの一種	65	40	71.43	
	キク	ツワブキ	15	40	35.71	
	クスノキ	シロダモ	7	40	30.00	
	ヤシ	トウシュロ	6	30	23.04	
	ニレ	ムクノキ	0.4	7	4.66	
	ブナ	シラカシ	0.1	10	6.32	
計		6種			171.16	
⑨	バラ	ヤブヘビイチゴ	75	3	55.45	
	サクラソウ	コナスビ	10	10	13.39	
	ニレ	ケヤキ	2	10	7.68	
	ブドウ	ツタ	2	5	4.55	
	カヤツリグサ	スゲの一種	1.5	15	10.45	
計		5種			91.52	
⑩	ユリ(クサスギカズラ)	ナガバジャノヒゲ	40	30	47.32	
	イネ	アズマネザサ	10	35	29.02	
	マツブサ	サネカズラ	5	25	19.20	
	ブナ	アカガシ	5	35	25.45	
	ドクダミ	ドクダミ	1	25	16.34	
	ニレ	ムクノキ	1	20	13.21	
	ウコギ	キツタ	0.5	5	3.48	
計		7種			154.02	

#### 4. 動物調査

##### (1) 哺乳類

現地踏査の結果、林内の北東側にホンダタヌキの溜糞を確認した。ほとんど使用されておらず、規模は小さい。未消化の草や噛み砕かれたビニールゴミなどが混じり、オカダンゴムシが集まっていた。

8月の調査では他の哺乳類の痕跡等は確認されなかった。



ホンダタヌキの小規模な溜め糞



糞に集まったオカダンゴムシ

##### (2) 爬虫類、両生類

8月の調査では確認されなかった。

##### (3) 鳥類

8月9日の10時~17時までに確認された鳥類を記録した。

その結果、ハシブトガラス、ヒヨドリ、シジュウカラ、キジバトが確認された。また、夕刻にねぐらに向かうと思われるムクドリの一群が通過した。

今回の調査では都市部に生息する種群だけであったが、今後、移動中の冬鳥などの飛来が期待される。

目	科	種名	レッドリスト等評価区分			確認数 8月9日
			環境省	東京都	杉並区	
ハト	ハト	キジバト				2
スズメ	ヒヨドリ	ヒヨドリ				2
	ムクドリ	ムクドリ				6
	シジュウカラ	シジュウカラ				1
	カラス	ハシブトガラス				12
計	5科	5種				

#### 環境省

##### レッドリスト(2007見直し)

EX絶滅:我が国ではすでに絶滅したと考えられる種  
EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種  
CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:絶滅の危機に瀕している種  
CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種  
EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種  
VU絶滅危惧Ⅱ類:絶滅の危険が増大している種  
NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種  
DD情報不足:評価するだけの情報が不足している種  
LP絶滅のおそれのある地域個体群:地域的に孤立している個体群で絶滅のおそれが高いもの

#### 東京都

##### 「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010年版」

EX絶滅:飼育栽培を含めすでに絶滅したと考えられる種  
EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種  
CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種  
CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種  
EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種  
VU絶滅危惧Ⅱ類:圧迫要因が続く場合近い将来絶滅危惧Ⅰ類に移行することが確実  
NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種  
DD情報不足:ランクを判定するだけの情報が不足している種  
\*留意種:準絶滅危惧に準ずる、生息地の限定や孤立個体群、人為的な保護により維持されている、外来種の影響に注意する必要がある特殊な環境条件を要する、自然の回復状況をあらわしている、良好な環境の指標となる、基準産地模式産地(タイプロカリティ)

#### 杉並区

##### 「杉並区自然環境調査報告書第5次」(2008)

- 1:元来、区内での分布が限られ数が少ない種(貴重種希少種)
  - 2:元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種
- :環境省及び東京都のレッドデータ記載種以外の、東京23区内で比較的まれな鳥(鳥類のみ)

#### (4) 昆虫類、クモ類

目視及び任意採集により調査を行った。調査は8月9日に実施し、51科94種を確認した。近くに川があることから、トンボ類が多く飛来していた。また、隣接地に草地があることから、コオロギ類やオンブバッタ等も林縁部を中心に確認された。

まとまった樹林であることから、ミンミンゼミ等のセミ類は多く、東京都レッドリスト種のヒグラシも確認された。

樹林性の甲虫類の確認は、シロテンハナムグリ、ハイイロチョッキリ、ナガゴマフカミキリと少なく、地上徘徊性甲虫も今回は確認されなかった。

ハチ類は、狩りを行うドロバチやアシナガバチ、クロスズメバチが頻繁に観察された。ハナバチ類は少なかった。クサギの葉にはカブラハバチが多く見られた。

チョウ類は、ササを食草とするジャノメチョウの仲間やサトキマダラヒカゲ、シイヤカシを食樹とするムラサキシジミ等、樹林性のチョウが多く確認された。また、要注意外来生物に指定されているアカボシゴマダラが3個体確認され、盛んにエノキに産卵していた。ガ類では、東京都レッドリスト種のおオミズアオが羽化していた。

クモ類は、オオヒメグモ、ジョロウグモ、ワカバグモ、コクサグモ等を確認した。



目名	科名	種名	レッドリスト等評価区分			8月9日
			環境省	東京都	杉並区	
トンボ	トンボ	シオカラトンボ				○
		ウスバキトンボ				○
		コノシメトンボ				○
カマキリ	カマキリ	マユタテアカネ				○
		ノシメトンボ				○
バッタ	コオロギ	ハラビロカマキリ				○
		オオカマキリ				○
ハサミムシ カメムシ	カネタタキ オンブバッタ ハサミムシ アオバハゴロモ セミ	ミツカドコオロギ				○
		エンマコオロギ				○
		ツツレサセコオロギ				○
		カネタタキ				○
		オンブバッタ				○
		ヒゲジロハサミムシ				○
		アオバハゴロモ				○
		アブラゼミ				○
		ツクツクホウシ				○
		ミンミンゼミ				○
アミメカゲロウ コウチュウ	アブラムシ ナガカメムシ ヘリカメムシ カメムシ クサカゲロウ ウスバカゲロウ ハネカクシ センチコガネ コガネムシ	ニイニイゼミ				○
		ヒグラシ				○
		エノキワタアブラムシ				○
		オオモンシロナガカメムシ				○
		ホシハラビロカメムシ				○
		チャバネアオカメムシ				○
		ヤマトクサカゲロウ				○
		ウスバカゲロウ				○
		アカハネハネカクシ				○
		センチコガネ(死骸)				○
ハチ	コメツキムシ テントウムシ カミキリムシ オトシツミ ゾウムシ ハバチ ツチバチ ドロバチ スズメバチ アリ	ヒメビロウドコガネ				○
		シロテンハナムグリ				○
		サビキコリ				○
		ナミテントウ				○
		ニジュウヤホシテントウ				○
		ナガゴマフカミキリ				○
		ハイロチョッキリ				○
		スグリゾウムシ				○
		セグロカブラハバチ				○
		ニホンカブラハバチ				○
ハエ	ムシヒキアブ アシナガバエ クロバエ ニクバエ ヤドリバエ	キンケハラナガバチ				○
		ハラナガツチバチ				○
		オオフタオビドロバチ				○
		スズバチ				○
		フタモンアシナガバチ				○
		セグロアシナガバチ				○
		クロスズメバチ				○
		ヒメアリ				○
		アミアリ				○
		クロオオアリ				○
クロヤマアリ				○		
トビイロケアリ				○		
ヒトスジシマカ				○		
アオメアブ				○		
シオヤアブ				○		
アシナガギンバエ				○		
ヒロズキンバエ				○		
キンバエの一種				○		
センチニクバエ				○		
ニクバエの一種				○		
ヤドリバエの一種				○		
ナガハリバエの一種				○		

NT

目名	科名	種名	レッドリスト等評価区分			8月9日
			環境省	東京都	杉並区	
チョウ(ガ類)	ツトガ シャクガ	マエアカスカシノメイガ				○
		ウスキクロテンヒメシャク シャクガの一種				○
チョウ(チョウ類)	ヤママユ	オオミズアオ		VU		○
	ヤガ	コヤガの一種				○
	セセリチョウ	キマダラセセリ				○
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ				○
		クロアゲハ				○
		ナミアゲハ				○
	シロチョウ	モンキチョウ				○
		モンシロチョウ				○
	シジメチョウ	ツバメシジミ				○
		ベニシジミ				○
	ムラサキシジミ				○	
	ヤマトシジミ				○	
タテハチョウ	ヒメアカタテハ				○	
ジャノメチョウ		コムスジ				○
		アカボシゴマダラ				○
		ヒメジャノメ				○
		サトキマダラヒカゲ				○
		ヒメウラナミジャノメ				○
クモ目	ヒメグモ	カグヤヒメグモ				○
		ムナボシヒメグモ				○
		オオヒメグモ				○
	コガネグモ	ヨツデゴミグモ				○
		マルゴミグモ				○
	アシナガグモ	メガネドヨウグモ				○
		ジョロウグモ				○
		アシナガグモの一種				○
	タナグモ	コクサグモ				○
	カケジクグモ	シモフリヤチグモ				○
	コモリグモ	ウツキコモリグモ				○
	カニグモ	ハナグモ				○
	ハエトリグモ	ワカバグモ				○
		デーニッツハエトリグモ				○
	計	51科	94種			

環境省

レッドリスト(2007見直し)

- EX絶滅:我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
- EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種
- CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:絶滅の危機に瀕している種
- CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
- EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
- VU絶滅危惧Ⅱ類:絶滅の危険が増大している種
- NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- DD情報不足:評価するだけの情報が不足している種
- LP絶滅のおそれのある地域個体群:地域的に孤立している個体群で絶滅のおそれが高いもの

東京都

「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010年版」

- EX絶滅:飼育栽培を含めすでに絶滅したと考えられる種
- EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種
- CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種
- CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
- EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
- VU絶滅危惧Ⅱ類:圧迫要因が続く場合近い将来絶滅危惧Ⅰ類に移行することが確実
- NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- DD情報不足:ランクを判定するだけの情報が不足している種
- \*留意種:準絶滅危惧に準ずる、生息地の限定や孤立個体群、人為的な保護により維持されている、外来種の影響に注意する必要がある  
特殊な環境条件を要する、自然の回復状況をあらわしている、良好な環境の指標となる、基準産地模式産地(タイプロカリティ)

杉並区

「杉並区自然環境調査報告書第5次」(2008)

- 1:元来、区内での分布が限られ数が少ない種(貴重種希少種)
- 2:元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種
- :環境省及び東京都のレッドデータ記載種以外の、東京23区内で比較的まれな鳥(鳥類のみ)





ノシメトンボ



コノシメトンボ



ハラビロカマキリ



オンブバッタ



カネタタキ



アオハゴロモ



ミンミンゼミ



ヒグラシ



エノキワタアブラムシ



オオモンシロナガカメムシ



ホシハラビロカメムシ



チャバネアオカメムシ



ウスバカゲロウ



ヒメビロウドコガネ



シロテンハナムグリ





ニジュウヤホシテントウ



ナガゴマフカミキリ



ハイイロチョッキリ



セグロカブラハバチ



ニホンカブラハバチ



クロヤマアリ



クロスズメバチ



ヤドリバエの一種



ホソハリバエの一種



ウスキクロテンヒメシヤク



オオミズアオ



コヤガの一種



キマダラセセリ



アオスジアゲハ



クロアゲハ





ナミアゲハ



ヤマトシジミ



ムラサキシジミ



コムスジ



アカボシゴマダラ



サトキマダラヒカゲ



オオヒメグモ



ジョロウグモ



コクサグモ



ワカバグモ



シモフリヤチグモ



デーニッツハエトリグモ

## 9月調査結果（9月11日～13日実施）

### 1. 動物調査

#### 1-1. 哺乳類（

先月の現地踏査で確認された溜め糞では、新しい糞は確認されなかったが、センチコガネ9個体が集まっていた。また、1ヶ月前に立木に設置したナンバリングテープの4か所がタヌキによって、噛みちぎられていた。時折、樹林地を訪れているものと思われる。

9月の調査では他の哺乳類の痕跡等は確認されなかった。



溜め糞に集まるセンチコガネ



タヌキが噛みちぎった樹木ナンバリングテープ



1-2. 爬虫類、両生類

爬虫類では、東京都のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類となっているニホンヤモリ1個体を、立木で確認した。

目	科	種名	レッドリスト等評価区分			確認数	
			環境省	東京都	杉並区	8月9日	9月11日
爬虫綱有鱗	ヤモリ	ニホンヤモリ		VU			1
	1科	1種					

環境省

レッドリスト(2007見直し)

- EX絶滅:我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
- EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種
- CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:絶滅の危機に瀕している種
- CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
- EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
- VU絶滅危惧Ⅱ類:絶滅の危険が増大している種
- NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- DD情報不足:評価するだけの情報が不足している種
- LP絶滅のおそれのある地域個体群:地域的に孤立している個体群で絶滅のおそれが高いもの

東京都

「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010年版」

- EX絶滅:飼育栽培を含めすでに絶滅したと考えられる種
- EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種
- CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種
- CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種
- EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
- VU絶滅危惧Ⅱ類:圧迫要因が続く場合近い将来絶滅危惧Ⅰ類に移行することが確実
- NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
- DD情報不足:ランクを判定するだけの情報が不足している種
- \*留意種:準絶滅危惧に準ずる、生息地の限定や孤立個体群、人為的な保護により維持されている、外来種の影響に注意する必要がある特殊な環境条件を要する、自然の回復状況をあらわしている、良好な環境の指標となる、基準産地模式産地(タイプロカリティ)

杉並区

「杉並区自然環境調査報告書第5次」(2008)

- 1:元来、区内での分布が限られ数が少ない種(貴重種希少種)
- 2:元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種
- :環境省及び東京都のレッドデータ記載種以外の、東京23区内で比較的まれな鳥(鳥類のみ)

### 1-3. 鳥類

9月12日の10時~17時に確認された鳥類を記録した。

キジバト、コゲラ、スズメ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ハシブトガラスが確認された。シジュウカラはエノキの実の採餌、コゲラは朽木で採餌していた。

目	科	種名	レッドリスト等評価区分			確認数	
			環境省	東京都	杉並区	8月9日	9月12日
ハト	ハト	キジバト				2	2
キツツキ	キツツキ	コゲラ				0	1
スズメ	スズメ	スズメ				0	4
	ヒヨドリ	ヒヨドリ				2	8
	ムクドリ	ムクドリ				6	0
	シジュウカラ	シジュウカラ				1	5
	カラス	ハシブトガラス				12	14
	7科	7種					

#### 環境省

レッドリスト(2007見直し)

EX絶滅:我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種

CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:絶滅の危機に瀕している種

CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

VU絶滅危惧Ⅱ類:絶滅の危険が増大している種

NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

DD情報不足:評価するだけの情報が不足している種

LP絶滅のおそれのある地域個体群:地域的に孤立している個体群で絶滅のおそれが高いもの

#### 東京都

「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)~東京都レッドリスト~2010年版」

EX絶滅:飼育栽培を含めすでに絶滅したと考えられる種

EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種

CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種

CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

VU絶滅危惧Ⅱ類:圧迫要因が続く場合近い将来絶滅危惧Ⅰ類に移行することが確実

NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

DD情報不足:ランクを判定するだけの情報が不足している種

\*留意種:準絶滅危惧に準ずる、生息地の限定や孤立個体群、人為的な保護により維持されている、外来種の影響に注意する必要がある  
特殊な環境条件を要する、自然の回復状況をあらわしている、良好な環境の指標となる、基準産地模式産地(タイプロカリティ)

#### 杉並区

「杉並区自然環境調査報告書第5次」(2008)

1:元来、区内での分布が限られ数が少ない種(貴重種希少種)

2:元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種

●:環境省及び東京都のレッドデータ記載種以外の、東京23区内で比較的まれな鳥(鳥類のみ)

#### 1-4. 昆虫類、クモ類

目視及び任意採集により調査を行った。9月11日に実施し、48科82種を確認した。

トンボ類では、ナツアカネヤコノシメトンボ、ノシメトンボ等のアカネ類が林縁部に飛来していた。

コオロギ類やバッタ類では、モリオカメコオロギが林内で、エンマコオロギやツツレサセコオロギが林縁部で確認された。バッタ類等も林縁部を中心に、オンブバッタやウスイロササキリ、ナガハネイナゴが確認された。

セミ類はミンミンゼミとツクツクホウシが優占しており、アブラゼミは少ない。

甲虫類は、8月に確認したカミキリムシやテントウムシ等は確認されなかったが、キノコが生えた朽木で菌食のミツノゴミムシダマシ、クロツヤキノコゴミムシダマシ、ゴミムシダマシ類の幼虫を確認した。また、溜め糞にセンチコガネが集まっていた。

ハチ類は、キアシナガバチ、キイロスズメバチが頻繁に観察された。ハナバチ類ではヒメハラナガバチがイノコヅチの花で吸蜜していた。また、朽木でクサクロアリのコロニーを確認した。

ガガンボ類では、朽木ではベッコウガガンボが産卵していた。ハナアブやハエ類では、ツマグロコシボソハナアブやナガハリバエの一種など、23区内ではあまり見られない種が確認された。

チョウ類は、ササを食草とするジャノメチョウの仲間や、ムラサキシジミ等の樹林性のチョウを多く確認した。また、クロアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、コムスジ、キタキチョウを確認した。

クモ類は、ジョロウグモ、ガグヤヒメグモ、デーニツツハエトリグモ等が確認された。

今回の調査では、朽木が存在するような樹林でしか生息できないゴミムシダマシ類、ベッコウガガンボ等の樹林性の昆虫類が確認されたことが注目される。



目名	科名	種名	レッドリスト等評価区分		確認種	
			環境省	東京都 杉並区	8月9日	9月11日
トンボ	トンボ	シオカラトンボ			○	
		ウスバキトンボ			○	○
		コノシメトンボ			○	○
		マユタテアカネ			○	
		ナツアカネ			○	○
		ノシメトンボ			○	○
ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ			○	○
カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ			○	○
		オオカマキリ			○	
バッタ	コオロギ	ミツカドコオロギ			○	○
		エンマコオロギ			○	○
		モリオカメコオロギ			○	○
		ツツレサセコオロギ			○	○
	カネタタキ	カネタタキ			○	○
	キリギリス	ウスイロササキリ			○	○
	オンブバッタ	オンブバッタ			○	○
	バッタ	ハネナガイナゴ			○	○
ハサミムシ	ハサミムシ	ヒゲジロハサミムシ			○	
チャタテムシ	ウロコチャタテ	オオウロコチャタテ				○
カメムシ	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ			○	
	セミ	アブラゼミ			○	○
		ツクツクホウシ			○	○
		ミンミンゼミ			○	○
		ニイニイゼミ			○	○
		ヒグラシ			○	○
		ヨコバイ	NT		○	○
		カシヒメヨコバイ			○	○
	アブラムシ	エノキウタアブラムシ			○	
	ワタフキカイガラムシ	イセリアカイガラムシ				○
	ナガカメムシ	オオモンシロナガカメムシ			○	○
	ヘリカメムシ	ホシハラビロカメムシ			○	○
	カメムシ	チャバネアオカメムシ			○	
アミメカゲロウ	クサカゲロウ	ヤマトクサカゲロウ			○	○
	ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ			○	○
コウチュウ	ハネカクシ	アカハネハネカクシ			○	○
	センチコガネ	センチコガネ			○	○
	コガネムシ	ヒメビロウドコガネ			○	○
		シロテンハナムグリ			○	○
	コメツクムシ	サビキコリ			○	○
	テントウムシ	ナミテントウ			○	○
		ニジウヤホシテントウ			○	○
	ゴミムシダマシ	ミツノゴミムシダマシ				○
		クロツヤキノコゴミムシダマシ				○
	カミキリムシ	ナガゴマフカミキリ			○	○
	オトシブミ	ハイイロチョッキリ			○	○
	ゾウムシ	スグリゾウムシ			○	○
ハチ	ハバチ	セグロカブラハバチ			○	○
		ニホンカブラハバチ			○	○
		ニホンチュウレンジハバチ			○	○
	ツチバチ	キンケハラナガバチ			○	○
		ハラナガツチバチ			○	○
		ヒメハラナガツチバチ			○	○
	ドロバチ	オオフタオビドロバチ			○	○
		スズバチ			○	○
	スズメバチ	フタモンアシナガバチ			○	○
		セグロアシナガバチ			○	○
		キアシナガバチ			○	○
		キイロスズメバチ			○	○
		クロスズメバチ			○	○
	アリ	ヒメアリ			○	○
		アミアリ			○	○
		クロオオアリ			○	○
		クロヤマアリ			○	○
		クロクサアリ			○	○
		トビイロクサアリ			○	○
ハエ	ガガンボ	ベッコウガガンボ			○	○
	カ	ヒトスジシマカ			○	○
	ムシヒキアブ	アオメアブ			○	○
		シオヤアブ			○	○
	ハナアブ	ツマグロコシボソハナアブ				○
		ホソヒラタアブ				○
	アシナガバエ	アシナガキンバエ			○	○
	クロバエ	ヒロズキンバエ			○	○
		クロバエの一種1			○	○
		キンバエの一種1			○	○
		キンバエの一種2			○	○
	ニクバエ	センチニクバエ			○	○
		ニクバエの一種			○	○
	ヤドリバエ	ヤドリバエの一種1			○	○
		ヤドリバエの一種2			○	○
		ナガハリバエの一種			○	○

目名	科名	種名	レッドリスト等評価区分			確認種	
			環境省	東京都	杉並区	8月9日	9月11日
チョウ(ガ類)	ミノガ	クロツヤミノガ					○
	ヒロスコガ	マダラマルハヒロスコガ					○
	ハマキガ	チャハマキ					○
	ツトガ	マエアカスカシノメイガ				○	
	スカシバガ	コスカシバ					○
	シヤクガ	ウスキクロテンヒメシヤク				○	
		ウスバミスエダシヤク					○
		シヤクガの一種				○	
	ヤママユ	オオミズアオ		VU		○	
	ヤガ	コヤガの一種1				○	
	コヤガの一種2					○	
	コヤガの一種3					○	
チョウ(チョウ類)	セセリチョウ	キマダラセセリ				○	
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ				○	○
		クロアゲハ				○	○
		ナミアゲハ				○	○
	シロチョウ	モンキチョウ				○	○
		モンシロチョウ				○	○
		キタキチョウ				○	○
	シジメチョウ	ツバメシジメ				○	○
		ベニシジメ				○	○
		ムラサキシジメ				○	○
		ヤマトシジメ				○	○
	タテハチョウ	ヒメアカタテハ				○	○
		コムシジ				○	○
		アカボシゴマダラ				○	○
	ジャノメチョウ	ヒメジャノメ				○	○
		サトキマダラヒカゲ				○	○
		ヒメウラナミジャノメ				○	○
		ヒカゲチョウ				○	○
クモ類	ウズグモ	カタハリウズグモ					○
	ヒメグモ	カグヤヒメグモ				○	○
クモ目		ムナボシヒメグモ				○	
		オオヒメグモ				○	
	サラグモ	コデーニツツサラグモ					○
	コガネグモ	ヨツデゴミグモ				○	○
		マルゴミグモ				○	○
		メガネドヨウグモ				○	○
	アシナガグモ	ジョロウグモ				○	○
		アシナガグモの一種				○	○
	タナグモ	コクサグモ				○	○
		ヒメクサグモ				○	○
	カケジクグモ	シモフリヤチグモ				○	○
	コモリグモ	ウツキコモリグモ				○	○
	エビグモ	キンイロエビグモ				○	○
	カニグモ	ハナグモ				○	○
		ワカバグモ				○	○
	ハエトリグモ	デーニツツハエトリ				○	○
計		126種				94種	82種

環境省

レッドリスト(2007見直し)

EX絶滅:我が国ではすでに絶滅したと考えられる種

EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種

CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:絶滅の危機に瀕している種

CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

VU絶滅危惧Ⅱ類:絶滅の危険が増大している種

NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ」に移行する可能性のある種

DD情報不足:評価するだけの情報が不足している種

LP絶滅のおそれのある地域個体群:地域的に孤立している個体群で絶滅のおそれが高いもの

東京都

「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)～東京都レッドリスト～2010年版」

EX絶滅:飼育栽培を含めすでに絶滅したと考えられる種

EW野生絶滅:飼育・栽培下でのみ存続している種

CR+EN絶滅危惧Ⅰ類:圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難な種

CR絶滅危惧ⅠA類:ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種

EN絶滅危惧ⅠB類:ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種

VU絶滅危惧Ⅱ類:圧迫要因が続く場合近い将来絶滅危惧Ⅰ類に移行することが確実

NT準絶滅危惧:現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ」に移行する可能性のある種

DD情報不足:ランクを判定するだけの情報が不足している種

\*留意種:準絶滅危惧に準ずる、生息地の限定や孤立個体群、人為的な保護により維持されている、外来種の影響に注意する必要がある特殊な環境条件を要する、自然の回復状況をあらわしている、良好な環境の指標となる、基準産地模式産地(タイプロカリティ)

杉並区

「杉並区自然環境調査報告書第5次」(2008)

1:元来、区内での分布が限られ数が少ない種(貴重種希少種)

2:元来、区内の広い範囲に分布していたが、近年減少している種

●:環境省及び東京都のレッドデータ記載種以外の、東京23区内で比較的多い鳥(鳥類のみ)



ナツアカネ



コノシメトンボ



ノシメトンボ



ハラビロカマキリ



モリオカメコオロギ



オンブバッタ



ミンミンゼミ



アブラゼミ



ホシハラビロヘリカメムシ



センチコガネ



ミツノゴミムシダマシ



クロツヤキノコゴミムシダマシ



ニホンチュウレンハバチ



スズバチ



キイロスズメバチ





ヒメハラナガバチ



クロヤマアリ



クロクサアリ



ベッコウガガンボ



ツマグロコシボソハナアブ



ホソハリバエの一種



キンバエの一種



ヤドリバエの一種



クロバエ科の一種



コスカシバ



ヒカゲチョウ



サトキマダラヒカゲ



カグヤヒメグモ



ヒメクサグモ

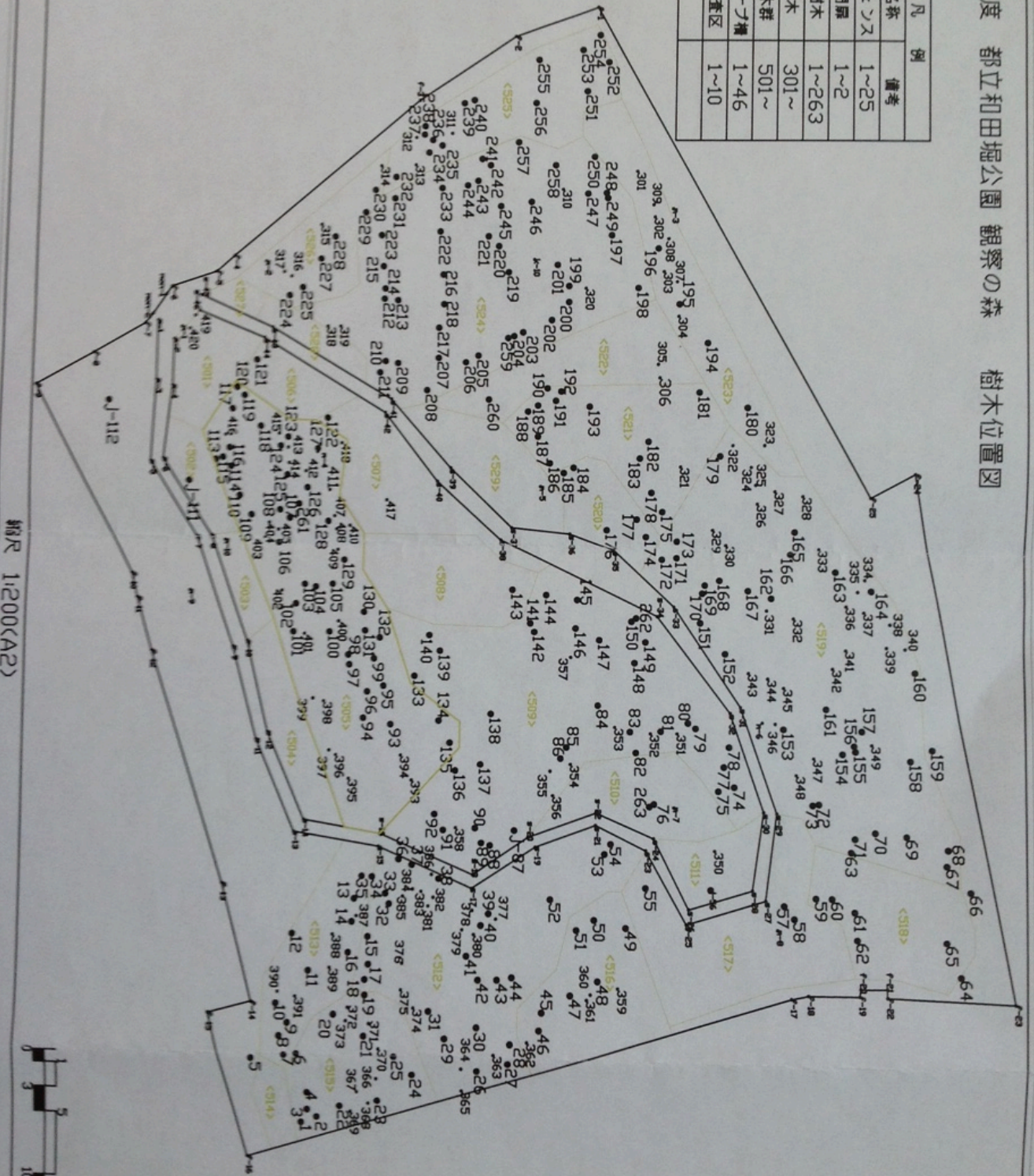


デーニツハエトリ



平成24年度 都立和田堀公園 観察の森 樹木位置図

凡例	名称	備考
f	フェンス	1~25
MOR	門扉	1~2
○	樹木	1~263
◦	低木群	301~
<>	ロープ橋	501~
S	調査区	1~46
M	調査区	1~10



縮尺 1:200(A2)